5月の花： スズラン

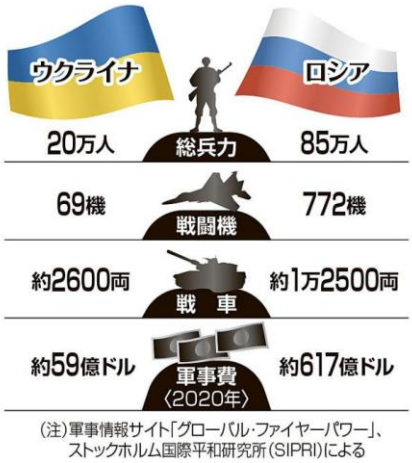
事　務　所　便　り

令和４年５月号

特定社会保険労務士・行政書士　重村　勝弘
重村行政労務管理事務所
ご連絡先：〒235-0021
：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102
電話・FAX：045-754-3412　携帯:070-5542-1466
E-mail：shigemura.office@etude.ocn.ne.jp

●ロシア侵略戦争の行方

_ロシアの侵攻が開始されて既に 2 か月が経過した。当初、数日で陥落するであろうと見積もられていた、ウクライナの首都はロシア軍の攻撃に耐え、侵攻してきたロシア軍を撃退した。左図はウクライナとロシアの戦力比を表したものであるが、ウクライナ軍の国防の意識が戦力比を覆しロシアと互角に戦っている。プーチンは 5 月 9 日の第 2 次世界大戦の対独戦勝記念日までにウクライナを屈服させようとしているが、戦争の長期化（ヴェトナム化）は避けられない。



●巡洋艦「モスクワ」轟沈 （写真は沈没直前の姿）

ロシア国防省は 14 日、モスクワが沈没したと発表した。ウクライナのゲラシチェンコ内相顧問は 18 日、沈没したロシアのミサイル巡洋艦「モスクワ」だとする艦船の写真を SNS に投稿した。外観が大きく損傷して大量の黒い煙が上がっており、大きな爆発があったことをうかがわせる。乗組員にもかなりの被害が出た可能性がある。 写真は近くの船から撮影されたものとみられる。ロシア国防省は 14 日、火災により弾薬が爆発し、曳航（えいこう）中に悪天候で沈没したと発表していたが、写真で見る限りは海は荒れているようには見えない。

ロシア政府は撃沈されたことを認めていないが、黒海艦隊の旗艦である「モスクワ」の沈没の衝撃の大きさがうかがえる。

この結果、ロシア黒海艦隊司令官は解任され、すでに逮捕されたと報道されている。

●中国の領土的野心（世界秩序揺さぶる中国の歴史観）

「中国国恥地図」と題する一枚の古い地図がある。

今から 95 年前、中国が列強の侵略を受けて半植民地状態にあった時代に、上海の中華書局という出版社が世に出したものだ。

地図の桃色の部分は「現存する土地」、緑色は「失われた土地」、ダイダイ色は「重複する土地」とある。

とりわけ目を引くのは、ほぼアジア全域を囲む青い線だ。北はシベリア南部や樺太、東は朝鮮半島や沖縄、台湾を取り込み、南はマラッカ海峡やネパールをかすめて、西はアフガニスタンやカスピ海東岸の中央アジアまで伸びている。いまの中華人民共和国の、ほぼ倍にあたる面積が囲われている。

「国恥地図」に描かれた中国の「かつての国境」

「国恥」という激烈な名前をつけられたこの地図に基づいて領土を拡張しようというのだろうか。

既に南シナ海では侵略が行われており、沖縄はじめ南西諸島も尖閣諸島がすでに侵攻の対象となっている。我が国も中国の侵攻対処に万全をの準備をすべきである。

●ロシアの妄言 「北海道に権利がある」

ロシアの政党「公正なロシア」のセルゲイ・ミロノフ党首は「どの国にも願望があれば、隣国に領土要求を提出することができる。専門家によれば、ロシアは北海道の権利を有している」 と発言したのは、政治家のセルゲイ・ミロノフ。さらに「日本の政治家たちが、第 2 次世界大戦の教訓と関東軍の運命を完全に忘れていないことを願っている。さもなければ、我々は彼らにその記憶を新たに呼び覚まさなければならないだろう」とも述べている。その国内向けのプロパガンダで出てきた『北海道に権利がある』という言葉は妄言というほかはない。

＜対日参戦の密約とスターリンの野心＞

1945 年2月4日から同 11 日まで、クリミヤ半島のヤルタで米国のルーズベルト大統領、英国のチャーチル首相、ソ連のスターリン首相による3カ国首脳会談が開かれた。

会談では、ソ連への千島列島の譲渡と南樺太の返還を条件に、ルーズベルト大統領はスターリン首相に対日参戦を促した。これが「ヤルタ密約」と言われるものだ。

米国のトルーマン大統領は8月 15 日、スターリン首相に対し、日本軍の降伏地域を規定した「一般命令第1号」)を送付した。

そこには「ヤルタ密約」とは違って、ソ連軍の占領地域は、満州と北緯 38 度以北の朝鮮となっており、千島列島は含まれていなかった。「一般命令第1号」の内容を不満としたスターリン首相は、8月 16 日、直ちにトルーマン大統領に次のような要求をする。

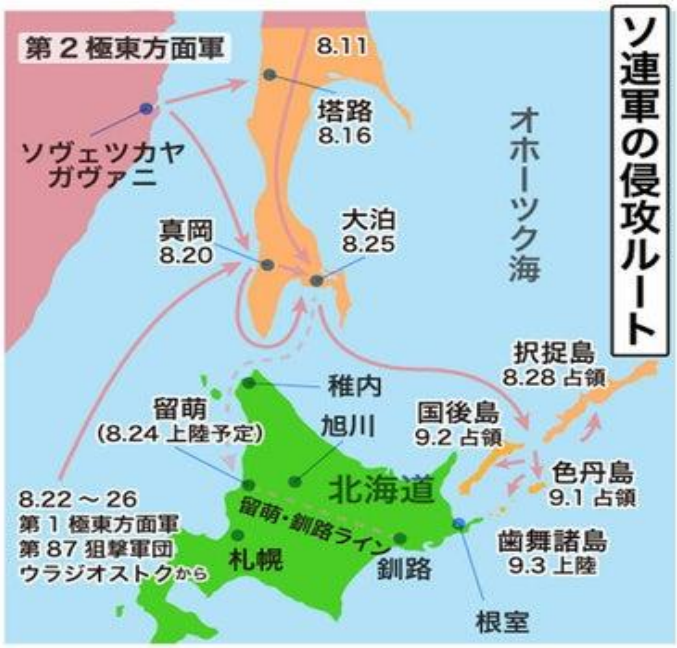
（1） 日本軍がソ連軍に明け渡す区域に千島列島全土を含めること。これはヤルタ会談における3カ国の決定により、ソ連の所有に移管されるべきものである。

（2） 日本軍がソ連軍に明け渡す地域には北海道の半分を含むこと。北海道の南北を2分する境界線は、東岸の釧路から西岸の留萌までを通る線とする。なおこの両市は北半分に入るものとする。

あろうことかスターリン首相は、北方4島を含む千島列島全島の領有をあげたのみか、北海道の半分を要求してきたのである。北海道の占領は、日本のシベリア出兵に対する代償であると主張した。

するとトルーマン大統領からは、北海道北部のソ連占領を認めないという返事が8月 18 日には届いていたが、スターリン首相はそれを無視する。

ソ連の戦史研究所所長ボルゴドノフ大将は、終戦直前にスターリン首相は極東軍最高司令官ワシレフスキー元帥に対して、「サハリン南部から北海道に3個師団の上陸部隊を出せるように準備指令を出した」と語っている。



北海道占領計画あった
ソ連戦史研所長と会見
終戦直前、スターリン指令
4個師団、寸前に中止
米が反発、原爆の存在知る
スターリン
「信頼できる発言」

幸いなことにソ連による北海道占領は実施されることはなかったが、今になって「北海道に権利がある」などの妄言を語る政治家がいることに、隣国として警戒を怠ってはならない。